

高等学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	① ア		各2×4
	② エ		
	③ ウ		
	④ ア		
問二	a とぼ	語として採点する。	各2×4
	b おちい		
	c すす		
	d しさ		
問三	A ウ		各3×2
	B オ		
問四	神もしくは自然は		4
問五	「読書における濫読」と「恋愛」が、先に行く者が戒めても後に来る者はそれを守らず、同じ誤謬を繰り返しがちであるけれども、そこから自分で教訓を学び取り、飛躍的な発展の契機とすることもできるという点。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
問六	自分の専門に関する読書しかせず、過去や世界全体の生活や思想を正しく見通せない一面的な人間。(46字)	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7
問七	多読 多くの本を読む読書の仕方。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×3
	濫読 何等の方向も目的もなく、多くの本を濫りに読む読書の仕方。		
	博読 自分の専門を有し、自分の専門と一般的教養とを関連付けて、多くの本を読む読書の仕方。		
問八	私は、生徒が将来「博読」を実践し、自分の専門を社会や人生に役立てることができるようにするために、まずは今までに読んだことのない作家やジャンルに広く触れさせるようにしたいと思います。そのために、国語科の授業では、ビブリオバトルをさせようと思います。 生徒たちは、読書習慣は身に付けたものの、読んでいる本は、同じ作家の作品ばかりであったり、同じようなジャンルばかりであったり、偏りがみられます。そこで、ビブリオバトルを行うことによって、これまでに読んだことのない作家やジャンルの本と出会うことができ、本を選ぶ際の視野を広げることができると思います。また、自分がそれまで知らなかった作家やジャンルの本の面白さや良さなどについて、友人の言葉で語られることによって、「読んでみたい」という興味・関心を喚起することができると思います。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	20

75

高等学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]			採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一	紀貫之				3
	問二	記号	b		記号と説明がともに合っているものだけを正答とする。	4
		説明	完了の「り」の連体形			
	問三	ひさかたの・あらかねの・ちはやぶる			順序は問わない。	各1×3
	問四	e	あたわず		ここをもって もよい。	各3×2
		g	ここをもちて			
	問五	エ				3
	問六	和歌より宜しきは莫し				4
	問七	生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける				4
	問八	共通点	素戔嗚尊が三十一文字の形式の始まりであるという点。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各6×2
		相違点	文章Aでは、天地が開け始まった時から和歌はよまれていたと述べているが、文章Bでは、素戔嗚尊よりも前に和歌はよまれていなかったと述べている点。			
	問九	神水をこぼした事以上の過失はあるだろうか、いやない			内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
	問十	X	き			各2×2
Y		し				
問十一	敬語	文法的な説明		敬意の対象	各4×2	
	せ 給ひ	尊敬の助動詞「す」の連用形	鳥羽法皇			
問十二	h	エ			各2×2	
	i	イ				
問十三	御衣が無くなったことの嫌疑を受けて北野天満宮にこもった小大進が、讒言により左遷された菅原道真の辛さを和歌に詠んだことで、天神が鳥羽法皇の夢に現れてお告げをし、それによって嫌疑が晴れたように、和歌には神仏の心を動かす力があるということ。(117字)			内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12	

75

高等学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
<div style="text-align: center;">三</div> 問一 問二	<p>話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	16
	<p>老婆 片手で死骸の頭から奪った長い抜け毛を持ったまま、墓のつぶやくような低い声で、下人に殺されるかもしれないという恐怖に怯え、口ごもりながら話しはじめる。最後の「じゃて、」からは、自分の正当性を主張するようにはっきりと話す。</p> <p>下人 太刀を鞘に収めて、左手で刀の柄を押さえ、右手で頬のきびを触りながら、無表情で伏し目がちに冷然と話を聞く。老婆の「されば、」のせりふのあたりで何かにふと気が付いたような表情になり、徐々に周囲をにらみつけ、盗人になろうと決意した表情になる。</p>	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。</p>	12
	<p>「おおむね満足できる」状況（B評価）であると判断される理由</p> <p>このト書きでは【教材】中の叙述だけではなく、老婆のせりふが進むに従って徐々に変化していく下人や老婆の心情を、自分の知識や経験などを踏まえて、分析や解釈をして表情や動作を表す言葉に表現できているため。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	6
	<p>【ワークシート】に記入したト書きに当たる【教材】中の部分に傍線を引かせ、意識させる。そして、下人の言動に関する分析や解釈の方法については、下人の様子が老婆のせりふの前と後で大きく変化していることに気付かせ、「下人は老婆のせりふの、どの言葉がきっかけで様子が変化しているのだろうか。」と、会話の中の言葉を登場人物の変化と関連付けながら読むように促す。また、老婆に関するト書きについては、「口ごもりながら言う」というところの老婆の心情を読み取って表現するために、「どうして老婆はこのせりふを口ごもりながら言うのかな。」「口ごもるといふ動作はどのような心情の時にする動作なのだろうか。」というように、なぜこのように書いてあるのかというところまで迫っていく発問をして分析や解釈を促す。このような手立てを講じて、ト書きに記述する表情や動作について書き表せるようにする。</p>	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。</p>	16

50